教科等研究会（中学校国語部会）
平成３０年度　研究活動のまとめ

1　研究テーマ

生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」国語科授業づくり ～主体的・対話的で深い学びを通して～

2　研究経過

第１回			第２回			第３回			第４回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/24	20	矢部中	8/17	甲佐中		10/18	甲佐中	丹生 あや 講師	1/24	御船中	松本 奈々 教諭

3　研究の概要

（１）研究の内容

上益城郡教科等研究会全体研究テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業作り」を受け、国語部会では平成３０年度の研究テーマを「生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』国語科授業作り～主体的・対話的で深い学びを通して～」と設定した。

①組織づくり

第１回目の研究会では、昨年までの取組みを継承しながら研究テーマの設定を行った。さらに部会を「１年生部会」と「２年生部会」に分け研究を進めることにした。

②夏季研修

８月の研修では、熊本県立済々黌高等学校益田啓史先生と玉名市立天水中学校大法公夫先生に講話をいただいた。

益田先生には、高校の国語科での取組について講話をしていただいた。高校での授業開きを紹介していただき、毎時間の授業の流れ「目標設定→自力解決→意見交流→まとめ」が示され、生徒とともに１時間の授業がどのように行われるのか共通理解されていることがわかった。また、毎時間の小テストのやり方、家庭学習の取組方も示されていた。高校でどのような授業が行われているかを知る機会となった。

大法先生には、新学習指導要領についての説明を「走れメロス」の指導案をもとにお話いただいた。また、「単元構想表」もとに指導事項のマトリクスを示していただいた。新学習指導要領では、カリキュラムマネージメントに重点がおかれている。その具体的なイメージを示していただいた。

③授業研究会

授業研究会では、２部会ごとに研究授業の検討をおこなった。事前研究会を放課後に２回ほど開催した。事前研究会では、指導案の検討、効果的な発問、ワークシートについての話合いが行われた。「２年生部会」では「徒然草」を「文章に表れているものの見方や考え方についてい、知識や体験と関連づけて自分の考えもつこと」の目標で行われた。「１年生部会」では、「多角的な視点で作品を読み解く　鑑賞文」を「想像を広げたり、いろいろな視点で分析したりして、自分の受け止め方や考え方を明確にして書く」の目標で行った。

（２）成果と課題

①成果

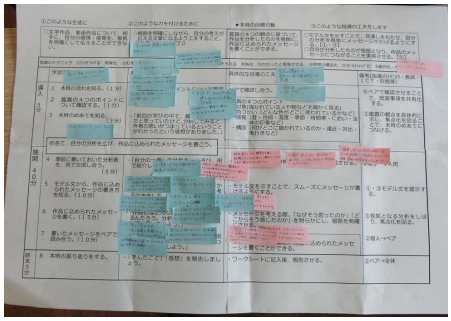
・高校での授業を知ることができ、中学校で押さえるべきことを見直すことができた。

・学校での担当学年と部会の学年を合わせることで、授業者や事前授業者だけでなく、それぞ

れが実際に授業をすることができた。
・ヒントカードで個別の対応をするこができた。

②課題
・つけたい力を明確にすることが大切。
・ICT を活用するときは、板書に残る工夫が大切。
・推敲のポイントを押さえることが大切。
・既習事項を繰り返し活用することが大切。

4　実践事例
（1）２年生部会（三省堂２年「徒然草」）
①授業者自評から
・今回は自分の考え方や価値観をふまえて随筆を書く活動を取り入れた。
・導入をペアか班かで悩んだ。
・箇条書きから文章に直すところでポイントを示せばよかった。



②質疑応答
・他の授業でヒントカードをどのように活用されているか。
・色分けの視点は何か。
・随筆の形式をどう指導されたか。
・班で読み合うことでどのような力をつけたかったのか。
③研究協議から
・導入がテンポよく流れがスムーズであった。
・評価の規準を明確にすることが大切。
・課題がスモールステップになっていて取り組みやすかった。
・展開でのヒントカードは有効であった。

（2）１年生部会（三省堂１年「多角的な視点で作品を読み解く　鑑賞文」）
①授業者自評から
・書くことに抵抗のある生徒がいるので「書く」ことの楽しさや充実感を味わって欲しかった。
・根拠を鑑賞文に組み込んだ授業にしたかった。
・生徒が分析したことが根拠として書くことができたいたか？アドバイスが欲しい。

②質疑応答
・どういったものが鑑賞文なのか。鑑賞文の定義をどのように考えているか。
・教科書に載っていない絵を用いた理由は何か。
・作文指導のとき原稿用紙の使いかたを教えるのか。指導の仕方は？
③研究協議から
・明るい雰囲気の中で授業が行われていた。分析するためのワークシートの中にヒントが多くあった。
・三角ロジックを学んでいるのでそれを使って書かせてもよかったのではないか。
・教師の手書きの掲示物が生徒の意欲につながっていた。
・教師の生徒を励ます声掛けが良かった。

（3）まとめ
「鑑賞文という定義はない。学習指導要領を押さえた授業であった。分析が根拠になっていることにとらわれるのではなく、書きながらわかることも大切である。」とご助言をいただいた。

国語科授業プラン　(２)年(１)組　授業者(　丹生　あや　)　平成３０年１０月１８日(木)　(２年１組教室)
題材名（　徒然草～第９２段～　）　本時（　３／３　）

①このような生徒に	②このような力を付けるために	★本時の目標行動	③このような指導の工夫をします
○古文の学習に意欲を持てない ○苦手意識があり、内容理解が厳しい	○文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連づけて自分の考えをもつこと。(「読むこと」(Cエ)) ○事実や事柄，意見や心情が相手に効果的に伝わるように，説明や具体例を加えたり，描写を工夫したりして書くこと。(「書くこと」(Bウ))	○本文の内容をつかみ、自分の経験と関連させて随筆を書くことが出来る。	○ＩＣＴの活用【①ひきつける】 ○随筆を書く際にモデルを示す【③方向づける】

指導のテクニック　①ひきつける　視覚化　②むすびつける　共有化　③方向づける　焦点化　④そろえる　共有化　⑤わかったと実感させる　⑥時間の構造化　⑦ｽﾓｰﾙｽﾃｯﾌﾟ化　⑧動作化・作業化

	学習活動(分)	発問・指示・説明	具体的な指導の工夫	備考(指導のﾃｸﾆｯｸ・教具・ＩＣＴ・形態等)
導入	１　第５２段、９２段の教訓を思い出す。(５)	・それぞれの話の概要をペアで確認しましょう。	・ペアで確認させる。	②ペアトーク ①ＩＣＴの活用
展開	○○法師になって、徒然草の二百二十四段を担当しよう			⑦学習活動１→２→３とスモールステップで思考を高めていく。
	２　同じような経験をしたことがないかを考える。(１５)	・徒然草のエピソードと似たような経験をしたことはありませんか。①～④から選び、書いてみましょう。 ①下準備をせずに行動して失敗 ②思い込み（勘違い）で失敗 ③何度かチャンスがあると思って最初手を抜いた ④なまけの心で失敗	・個人で思い起こさせる。 ・経験が書き出せない場合にはヒントカードを活用する。	
	３　○○法師になって随筆を書く。(１５)	・二つの段落の形で随筆を書く。(エピソードの概要、感想・考え)	・書き方のモデルを示す。	①ＩＣＴの活用
終末	４　班で交流する。(１０)	・友だちの随筆を読みましょう。	・自分のものだけでなく、友だちの書いたものを読む場をつくる。	⑤ワークシート ②班活動
	５　ふりかえり（５）	・今日の学習のふりかえりをしましょう。	・ふりかえりシートに記入させる。	⑤ワークシート

①このような生徒に	②このような力を付けるために	★本時の目標行動	③このような指導の工夫をします
○文学作品、美術作品について、相手に、自分の感情・感覚を、根拠を明確にして伝えることができない。	○根拠を明確にしながら、自分の考えが伝える文章になるよう工夫すること。（「Ｂ書くこと」のウ」）	鑑賞の４つの観点に基づいて、作品を分析したものを根拠に、作品に込められたメッセージを書くことができる。	○モデル文を示すことで、見通しをもたせ、自分の分析を根拠にメッセージがかけるようにする。【①・③】 ○自分が分析したものが根拠となり、作品のメッセージにつながることを実感させる。【⑤】

指導のテクニック　①ひきつける　視覚化　②むすびつける　共有化　③方向づける　焦点化　④そろえる　共有化　⑤わかったと実感させる　⑥時間の構造化　⑦ｽﾓｰﾙｽﾃｯﾌﾟ化　⑧動作化・作業化

	学習活動(分)	発問・指示・説明	具体的な指導の工夫	備考(指導のﾃｸﾆｯｸ・教具・ＩＣＴ・形態等)
導入 ５分	１　本時の流れを知る。（１分） ２　鑑賞の４つのポイントについて確認する。（１分） ３　本時のめあてを知る。（３分）	・「鑑賞の４つのポイントについて確認しましょう。」 ・「前回の学びの中で、最初はただの絵だと思っていたけど、分析してみると、作者の思いがつまっているということがわかったという感想がありました。」	ペアで確認し合う。 鑑賞の４つのポイント ・対象(描かれている人や物などを細かく見る) ・色づかい（どんな色がどこに使われているかなど） ・感覚（音・台詞・温度・季節・時間帯・におい・全体の印象など） ・構図（何がどこに描かれているのか・遠近・対比・奥行きなど）	④ペアで確認させることで、既習事項を共有化する。 ③鑑賞の観点を具体的に示し、焦点化を図ることで、本時のめあてにつなげる。
	めあて　自分の分析を広げ、作品に込められたメッセージを書こう。			
展開 ４０分	４　事前に書いておいた分析表を、班で交流し合う。（５分） ５　モデル文から、作品に込められたメッセージの書き方を知る。（１０分） ６　作品に込められたメッセージを書く。（１５分） ７　書いたメッセージをペアで読み合う。（１０分）	・「自分の一押しの分析を一つ選び、班で紹介し合いましょう。」 ・「みんなが前回学習した絵画の分析から、作品に込められたメッセージを考えてきました。」 ・「作品にはどんな思いが込められているんだろう。分析した内容を根拠に、実際に書いてみよう。」 ・「メッセージをペアで読み合い、根拠の明確さや、豊かな表現などに印をつけ、意見を交換しよう。」	・自分が紹介したい分析を一つ選ばせ、交流させる。 ・モデル文を示すことで、スムーズにメッセージが書けるようにする。 ・メッセージを考える際、「なぜそう思ったのか」「どこからそう感じたのか」を明らかにし、根拠を明確にさせる。 評価　（書くこと） 分析した内容を根拠に、作品に込められたメッセージを書くことができる。	②③３～４人班 ①・③モデル文を提示する。 ③根拠となる分析をしぼり、焦点化を図る。 ②個人→ペア
終末 ５分	８　本時の振り返りをする。	・「学んだこと」「感想」を報告しましょう。	・ワークシートに記入後、報告させる。	⑤ペア→全体